

夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史

北海道・東北編



撮影者不詳《陣羽織姿の松前崇廣》
慶応2(1866)年以前 アンプロタイプ 松前町郷土資料館蔵



白崎民治《押川春浪》
明治21(1888)年頃 鶏卵紙 仙台文学館蔵 ※前期のみ



宮内幸太郎《明治三陸津波写真》『中島待乳写真台帳』より 明治29(1896)年 鶏卵紙 石黒敬章氏蔵/一般社団法人日本カメラ財団蔵

幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。芸術作品に用いられる以前の写真は、西洋技術の象徴でした。やがて、訪日する写真師との関わりから、日本人の写真師が各地に現れます。そして、内戦を経て西洋の近代化へと文化的に変容する日本に、写真技術は広く普及し、伝承されていきました。

本展では、東京都写真美術館を中心とした共同開催館で行った、北海道、東北にある公共機関への調査結果をもとに、収蔵が判明した写真作品を紹介いたします。さらに、東京都写真美術館と日本大学芸術学部が収蔵する初期写真を加え、現存する幕末から明治期の貴重なオリジナル写真約五〇〇点を体系的に構成して展覧します。

画像だけではなく、「物」として楽しめる初期写真史の逸品とともに、台紙や写真帳の意匠、写真と同じモチーフに取り組んだ錦絵、石版画、さらに写真器材など、初期写真の時代を直截感じられる作品、資料を一堂に会して紹介します。

また、二年前に起こった東日本大震災の報道を多くの人が目の当たりにしましたが、明治期にも同様に天災を記録し、伝える手段として写真が用いられました。磐梯山噴火(明治二十一年)や、庄内大地震(明治二十七年)、三陸大津波(明治二十九年)といった東北の災害の歴史を伝える天災記録写真も併せて展示し、災害に向き合う人間の姿と写真の持つ特性を見つめなおします。



撮影者不詳《飛鳥神社矢大臣門崩壊之真図》
明治27(1894)年 鶏卵紙 本間美術館蔵 ※前期のみ



鶴野軒《西田川郡役所》
明治15(1882)年頃 鶏卵紙 致道博物館蔵



江崎写真館《影山正博像》
明治8(1875)年 アンプロタイプ 三春町歴史民俗資料館蔵

関連企画

■ゲスト・トーク

本展覧会企画者が会場をご案内します。
ゲスト：三井圭司氏(東京都写真美術館学芸員)
日時：7月20日(土)、8月4日(日)

■ギャラリー・トーク

当館学芸員が会場をご案内します。
日時：8月17日(土)
【各回】
時間：14:00～15:00 参加料：無料
※ただし、入場には観覧券が必要です。
申込み：不要、会場へ直接お越しください。

同時開催イベント

■特別ワークショップ・市民交流プログラム 親子でこうさく!パッケージ犬&カブトムシ

パッケージクラフトを親子で制作します。
講師：高橋和真(パッケージクラフト作家)
日時：7月27日(土)13:30～16:00
会場：アトリエ
対象：小学生とその保護者
定員：先着15組
費用：1組500円
申込み：7月4日(木)よりワークショップ開催前日まで(休館日を除く)
※館内受付にて参加料を添えてお申込みください
(受付時間 9:30～19:00 / 電話予約可)



《アルフォートオオカブト》2012年
使用パッケージ:プルボン アルフォート

鶴岡アートフォーラム

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3
TEL:0235-29-0260(代表) FAX:0235-22-6051
E-mail:info@t-artforum.net URL:http://www.t-artforum.net



※お車でのご来場の際は、市駐車場(無料)が最寄りです。
※最寄りのバス停は「アートフォーラム前」または「市役所」「致道博物館」です。